



老松っ子だより

学校だより 第14号
令和5年1月12日
倉敷市立老松小学校



新年、明けましておめでとうございます。
本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。



◆◆◆ 3学期始業式の話 (1/10) ◆◆◆

1 干支の話

今年は令和5年(2023年)「卯(う)年」です。卯年は、十二支の四番目の年です。「卯年」は「芽を出した植物が目に見えて、大きく成長する年」とされています。また、ウサギのように「跳ね上がる」「飛躍する」という意味があり、何かを始めるのに、とても縁起のよい年だと言われています。こんな卯年にちなんで、全校の皆さんには、何か一つ目標を決め、粘り強く努力を続け、実り多い一年にしてほしいと思います。

2 ドラえもんが大好きなファンが創作した、ドラえもん最終回の話(概略)

～目標を達成するために～

ある日、突然ドラえもんが動かなくなってしまいました。全く反応がありません。心配になったのび太君はドラえもんの妹のドラミちゃんに相談しました。すると原因が、電池切れだったことが分かりました。でも、記憶のバックアップ装置が入っているのは耳。耳がないドラえもんは、電池を入れ替えると、それまでの記憶を全部失ってしまうそうです。つまり、のび太君が誰かも分からなくなってしまうのです。

「ドラえもんを動くようにしたい。でも電池を入れ替える」と思い出が全て消えてしまう。」のび太君はとても迷います。そして迷ったのび太君は、ドラミちゃんに言いました。「このままでいいよ!」のび太君小学6年生の秋でした。のび太君は周りの人には「ドラえもんは未来に帰ったんだ」と言いました。しかし、実はドラえもんはのび太君の部屋の押し入れの中に入っていたのです。動かなくなってしまった時のまま……。

のび太君は勉強がとても苦手でした。でも、ドラえもんがいなくなってから、必死に勉強しました。頑張るって頑張るって、中学校高校大学と進学し、やがて、ロボットを研究する技術者になりました。しずかちゃんと結婚して、しずかちゃんに応援してもらいながら……。やがて気が付いたら何十年という時間がたっていました。

そしてある日のこと、のび太君はしずかちゃんを自宅の研究室に呼びました。そこには、何と動かなくなったあの日のままのドラえもんが。しずかちゃんはびっくりします。「ドラちゃん……。泣いているしずかちゃんにのび太君は言いました。「こっちに来て。これからドラえもんのスイッチを入れるから。」この瞬間のため、まさにこのためにのび太君は勉強を続け、技術者になったのでした。のび太君は優しくスイッチを入れました。すると……。のび太君、宿題は終わったのかい?」こうして、のび太君の手でドラえもんはよみがえったのです。



人間とは、ある時、突然変わるものなのです。それがのび太君にとってはドラえものの電池切れだったのですね。「ドラえもんを直したい・・・」それがのび太君の勉強への原動力になっていたのです。

のび太君が教えてくれたこと。それは・・・

「目標をもって頑張れば、きっとできるようになる。」という言葉です。

「物語だから」といってしまえばそれまでですが、実際に一つのことに向かって頑張っている人はたくさんいます。今、合格を目指して受験勉強を頑張っている人。昨日、全国高校サッカー選手権で、岡山県代表の岡山学芸館高校が、岡山県勢として初めて優勝しました。また、昨年末には、全国高校駅伝競走大会で、同じく岡山県代表の倉敷高校が、4年ぶり3回目の優勝を果たしました。このようにスポーツの世界で栄冠を目指して頑張っている人たち。皆さんの周りには先生たちも「小学校の先生になりたい」と思って頑張ってきたんですよ。皆さんにも一つのことに向かって、粘り強く頑張ってもらいたいと思います。

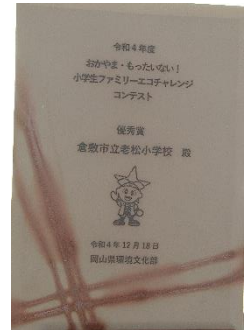
◆◆◆老松っ子表彰特集◆◆◆

学期末から、またまた、たくさんの表彰式が行われました。日々の頑張りが認められたり、様々なことにチャレンジしたりしたからこそ得ることができた表彰状。老松っ子の頑張りに「ブラボー！」です！

「おかやまもったいないファミリーエコチャレンジコンテスト」	優秀賞	老松小学校第4学年
「おかやまもったいないファミリーエコチャレンジコンテスト」	努力賞	4年 櫻井 鳴海 さん
「おかやまもったいないファミリーエコチャレンジコンテスト」	努力賞	4年 田邊 陽莉 さん

「岡山県読書感想文コンクール」 特選の人		
6年 小野山 ここ さん	6年 北條 在積 さん	5年 松田 妃奈 さん
3年 小野山 ゆり さん	3年 柴山 翔伍 さん	1年 井田 有咲 さん

【英語朗読スピーチコンテスト】	金賞	5年 森田 結衣 さん
-----------------	----	-------------



4年生は、学年全体で取り組んだので、こんなに立派な備前焼でできたたてをいただいています。

◆◆◆子育てコーナー◆◆◆

親子の気持ちの伝え方、言わないと伝わらないし、言いすぎても伝わらないし、気持ちのすれ違いをなくすには、何が大切なのでしょう？そんな時には、「あなたは」ではなく、「わたしは」の「アイメッセージ」で発信してみてもどうでしょうか？「こんなに遅くまで帰らないと、お母さんは心配なの。」「人の悪口を言うなんて、お父さんは悲しい。」主語を変えるだけで、伝わり方が、変わってくると思います。ぜひお試しください。